

「ふるさと東大和を想う」親和交流会

南街・桜が丘地域防災協議会本部
平成31年03月31日

03月31日に標題の内容で親和自治会の親和交流会が「東やまとの散歩道」著者の内堀輝志様から東大和の南街地区の成り立ちを中心に戦前・戦後の歴史を中心にお話をして戴きました。使用した資料は本誌2及び3ページをご覧ください。

東大和全体の内容としては、町名選定事由、明治から現在迄の経緯及び人口と農耕地の推移(本ページ後段部分の表を参照下さい)は大変参考になりました。本報告書の筆者も東大和が故郷であり75年間住んでおりますが、改めて東大和の歴史を知ることが出来ました。本会に参加させて戴き御礼申しあげます。

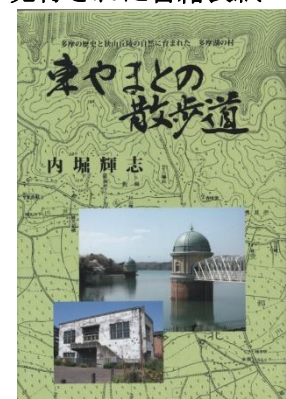
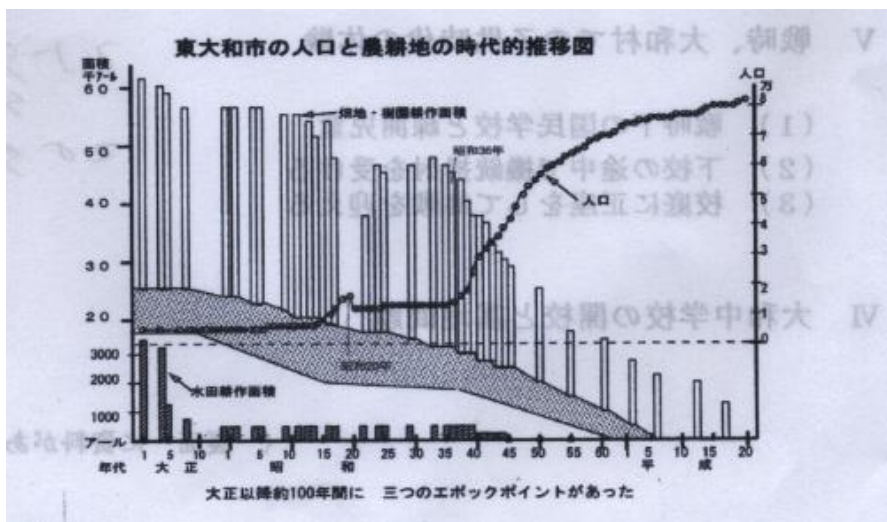
講師；内堀輝志様



参加の皆様



発行された書籍表紙



『ふるさと東大和を想う』 親和交流会

平成31年3月31日

親和・たまり場

談話：内堀輝志

I ふるさとの地名・町名を考える

- (1) 由縁を大事に選定された東大和市の町名 (資料1-17町名)
- (2) ふるさとの地名の中に生きる先人の暮らしと想い

II 「大和村」へつながる軌跡

- (1) 旧村地域が一つに編成されていく過程 (資料2-改革組合村の編成)
- (2) 明治以降、東大和市までの進展 (資料3-明治から現在までの経緯)

III 村が受けた三つの大変革

- (1) 抗しきれなかった三つの大事 (資料4-人口と農耕地の推移図)
- (2) 村山貯水池の建設と水没した住民の移転

IV 東京空襲と日立航空機の爆撃被害

- (1) 太平洋戦争と東京空襲
- (2) 日立航空機の村への進出と空襲被害
- (3) 村の上空での空中戦・体当たり

V 戦時、大和村での子供時代の体験

- (1) 戦時下の国民学校と疎開児童
- (2) 下校の途中で機銃掃射を受ける
- (3) 校庭に正座をして終戦を迎える

VI 大和中学校の開校と基地問題

(裏面に資料があります)

(資料1 - 17町名)

○ 東大和市の町名選定事由

- ① 古村名から(芋窪・蔵敷・奈良橋・高木・狭山・清水) - 6町
- ② 旧小字名から(上北台・立野・仲原・向原・新堀) - 5町
- ③ 親しみある地名から(多摩湖・南街・桜が丘) - 3町
- ④ 新しい地名として(中央・湖畔・清原) - 3町

(資料2 - 改革組合村の編成)

○ 関東取締出役(通称「八州廻り」)

文化2年(1805) 関八州に創設・設置

○ 改革組合村の結成

文政10年(1827) 蔵敷小組合(蔵敷村・清水村と廻り田村)

所沢大組合(寄場組合)に所属

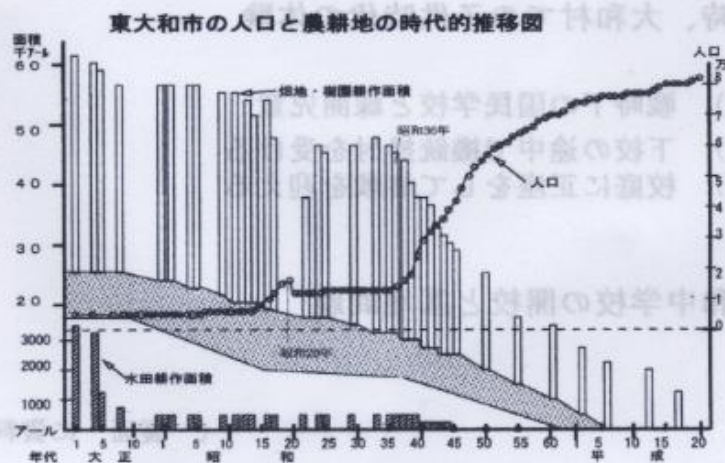
(資料3 - 明治から現在までの経緯)

○ 明治以降、東大和市までの進展

- ・明治6年 東大和市域確定 芋窪村を含め、神奈川県第十一区第十番組に編成
 - ・明治22年 「市制・町村制」が敷かれる 「高木村外五か村組合」になる
 - ・明治26年 神奈川県から東京府に移管
 - ・大正8年 「大和村」誕生 「大きく和する」という意味
 - ・昭和18年 都制が敷かれ 東京都に
 - ・昭和29年 大和町(町制施行) 人口 13,052名
 - ・昭和45年 東大和市(市制施行) 人口 45,902名
- 平成31年3月1日現在 人口 85,455名 世帯 38,849 世帯

(資料4 - 人口と農耕地の推移図)

○ 東大和市域が 抗しきれなかった三大変革の時期を読み取る



交流会開催のお知らせ

by

「交流サロン・たまり場」

平成31年3月7日

たまり場運営委員一同



皆様こんにちは。寒さもやわらぎ春の兆しを感じられる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

2018年度最後の3月度「交流サロン・たまり場」は、『東やまとの散歩道』を書かれた8組の内堀輝志さんを囲み、大和村の誕生から終戦を経て現在に至るまでのお話をお聞きします。その後に、内堀さんと対談形式で参加者全員が“やまと”の歴史を学び、語り合う会を企画してみました。

きっと誰もがいままで知らなかった事実を知り、自分たちが住んでいる地域に新しい愛着を感じられることと思います。

是非とも大勢の方々に(昔から親和に住んでいる方も、新しく親和に来られた方も)ご参加いただき、楽しい会にしていきたいと思いますのでご参加のほどよろしくをお願いします。

記

日時 3月31日(日) 13:30~15:30

講師 内堀輝志さん(8組)

※著書『東やまとの散歩道』のほか、『こころの機微』『多摩湖の村』など

場所 小林邸(親和1組エリア内。下記地図をご参照ください。)

参加費 200円

